

## 土木學會定時總會概況

土木學會定時總會は一月十七日午後三時半より丸ノ内帝國鐵道協會講堂に於て次の準序により舉行された。

一、事業報告。二、決算報告。三、未納會費缺損處分。四、役員改選。五、會長講演。

定刻に中川會長司會の下に、丹治主事の事業報告に始まり、牧野主事の決算報告があつた。事業は鐵筋混凝土委員會の調査が完了し近く標準示方書が發表される、其他本年の繼續事業其他の説明があり、會計状態も益々良好となり、基金も十三萬圓に達した事を一々印刷物に依つて説明あり、會員那須氏から事業上の質問あつて議事は全部異議なく可決次いで役員改選の投票となり、投票は岡田實、佐藤氏などの立會で別室にて調査、其間に中川博士の會長講演があつた。

## 退任すべき役員

會長 中川 吉造氏

副會長 八田 嘉明氏

常議員 久保田敬一氏

同 近 新三郎氏

## 留任すべき役員

副會長 貞島健三郎氏

常議員 木津 正治氏

同 各日 三郎氏

(1) 土木學會定時總會晚宴會席上那波新會長の挨拶

同 貞田 秀吉氏 同 橋本 敬之氏

同 前川 貫一氏 同 平井喜久松氏

開票の結果新役員當選者次の如し。

會長當選 那波光雄氏 票數 372

同 點 八田 嘉明氏

同 井上 秀二氏

會長投票數は384票の中、那波博士の票數は實に372票の斷然壓倒的大多數であつた。

副會長當選 前川貫一氏 票數 349

次 點 貞田 秀吉氏

同 名井 九介氏

常議員當選者 池田 嘉六氏 票數 126

同 同 春木 節郎氏 同 121

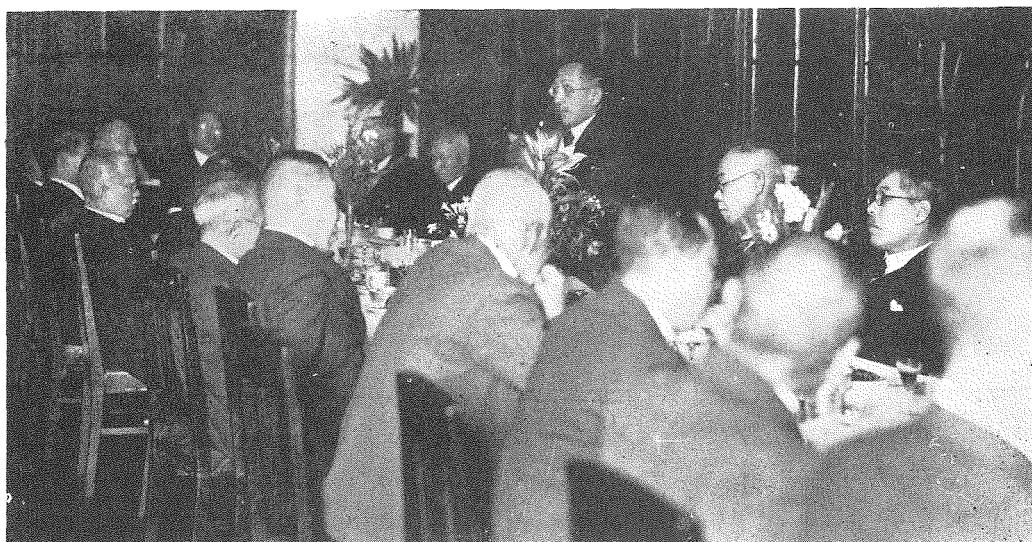
同 同 生野 勝六氏 同 109

同 同 田井 九一氏 同 109

尙ほ來島良亮氏も票數109であつたが、同點を以て年長者が當選される事になつた。

中川博士の會長講演は、

1.緒 言 2.我國の失業狀態 3.失業救濟施設の必要 4.失業救濟並に防止策 5.失業救濟と土木事業の關係 6.我國の失業事業 7. 結 言  
の順序により縷々一時間餘に及び、歐州大



戰前の世界事情から説起して我國の事情に及び、昭和5年8月我國內の失業者數38萬6千餘人で、東京は其中の三分一を占め、特に注意すべきは、大都市の失業者數の約二分一は朝鮮人労働者である事、此が救濟は朝鮮に救濟事業を起すべきであるなど、而して土地の失業を緩和するの必要を述べられた。

#### 土木學會晚餐會

總會終る後、別室に於て晚餐會が催され、舊會長及び役員を始め參會者七十名に及び盛會を極めた。席上副會長眞島博士は新舊會長副會長の送迎辭を述べて一同と俱に乾杯し、中川博士及び八田氏は之に答へて退任の挨拶を述べて一同と乾杯し、やがて那波博士は新會長としての擲換を述べ、九年前英國に於てバルマー博士と會見したる當時を追憶して、英國に於ては、土木學會長に選任せらるゝ事は、榮爵の授與以上に光榮たる事を述べ、當時の我土木學會の狀態に比較して感慨に耐へなかつたが、其後我國に於ても異數の發達をなし、萬國工業會議を開催するに至つた。今後會員各位と協力して學會の爲に一層の努力をしたいと勵聲された。

次いで前川貫一氏簡単に副會長就任の挨拶を述べ、次に中川博士指名の卓上演說に入り名井博士は希望として常議員數を増して若い人に出て貰ひ度い、同時に常議員の顔觸が一方に偏してゐるから議員數を増せば之も公平に出來ると、曾て北海道學士會支部長としての經驗を述べ、大井上前雄博士は關門海底隧道工事計畫は國家の大問題であるから、有力なる本會の如き團體の援助を希望し、松浦圓四郎氏は老齢であるから一生の中の想出にと飛行機に乗つた経験談を述べ、那須章彌氏は中川前會長は生々して失業問題を論じて會長講演に一新紀元を與へられたるを謝し、土木學會が新に設けられた一萬圓基金を事業に活用する事を希望し、尙ほ政府の各工事入札豫算を豊富にして貨幣の流通度を増す事を希望し、田邊前會長は土木用語に就て注意され、假名文字使用を希望し、最後に丹治主事より、會基金に就て説明あり、那須章彌氏が基金利用の希望を述べ散會した。

×                    ×  
                      ×                    ×

(2) 同 上 前川新副會長の挨拶

